

どんぐりsカフェ「結城氏講演会」

「孤独死」に見る地域包括ケアの課題

「どんぐりsカフェ」のシリーズ企画「安心して暮らせるまちづくり」の締めくくりとして3月1日、結城康博氏（淑徳大学）の講演会「地域包括ケアシステムで私たちの生活はどう変わるの？」が、保健センターで開かれた＝写真。雨天にもかかわらず52人の参加があった。

冒頭、地域包括ケアの狙いが、介護を「公助・共助」から「互助・自助」へとシフトさせることにあるとの指摘があり、自治体による介護環境の違い、個々の経済条件の違いなどが介護格差につながるのではないかと、また地域力が弱く



なっている中でどう対応していくのか、との問題提起があった。

その後、「孤独死」の実態とその解消のための「見守り活動」の実例の紹介があり、「孤独死」対策としては、①自らの死について自らが責任を負うという自覚が必要であること②その一方で地域としては、「孤独死をさせないための取り組み」と「孤独死が発生した場合、できるだけ速やかに発見・対処する仕組み」の二つの対応が必要であるとの指摘があった。

最後に地域包括ケアシステムが成功するためには、介護職員の確保と増員が不可欠であるにも関わらず、4月の介護保険制度の改定（介護報酬2.27%削減）により、その成否が危ぶまれるとの指摘で講演が締めくくられた。

今回の3回シリーズ企画をとおして、地域包括ケアの現状と問題を知るとともに、高齢者や子ども・子育て世代の問題に取り組んでいる団体（人々）やその活動があることを知ることができた。この成果を今後の活動にどう活かしていくか、それを課題としたい。

どんぐりsから

●春日井市は、この4月から高蔵寺ニュータウン（NT）を専門に担当する「ニュータウン創生課」を設置するようです（2/19新聞報道）。伊藤市長の「ニュータウンを新たに創り上げるといふ気持ちをこめて創生課と名付けた」との言葉に期待したいものです。と同時に、私たちニュータウン住民自らが、自分たちの“まち”をどうしたいのか、また、どのようにして実現したいのか、を明確にすることが大事になっています。「どんぐりs」としてもそうした議論を活発にしていきたいと考えているところです。

●3/19（木）、夕方5時から、東部市民センター大ホールにおいて、社会福祉法人養楽福祉会による「高森台5丁目の県有地に障がい者施設の第1期工事の概要、第2期以降の整備計画の説明会」が開催されます。皆さん、参加してみませんか？

（藤城 栄一）

（藤城 栄一）

子育て支援活動に期待

2月21日の「どんぐりsカフェ」は、「地域包括ケア」勉強会の第2弾として、「みんなで考えよう、子どもたちが安心して暮らせるまちづくり」をテーマに開催されました。

集いでは、社会福祉協議会の渡邊正樹さんが、ニュータウン内8地区社協での子育て支援サロン事業について説明、春日井市の子ども人口の推移と、子育てや子どもの育ちに関する意識アンケート内容などを報告しました。

その後、参加者の質問をまじえ、東高森台の子育てサロン（参加20～40人）、押沢台のすくすくクラブ（同40人ほど）の活動につい

て報告があり親子で楽しく遊べる場とし定着しているとのことでした。また、藤山台と第2ひばり幼稚園の園長先生からも園の近況と、子育てがしにくい状況のなかでも元気でたのしい子育てにがんばるお母さんになってほしいとの発言もありました。ニュータウンには、子育て支援サークルや子育てサークルもあり、通学路などでの子どもの安全、安心のためにさまざまな取り組みもあり、0歳児の保育所が少ないなど問題点もあるが、若い子育て世代にとっても住みやすい町になっているという明るい展望が見える会となりました。（杉山 裕章）

藤山台地区2小学校跡活用検討懇談会 本会などの活用案検討

藤山台地区の学校統合に伴う2小学校跡の利用方法を協議する春日井市の小学校施設活用検討懇談会（座長・服部敦中部大教授）が1日、東部市民センターで開かれた。

会合ではまず、ニュータウン再生市民会議、春日井商工会議所青年部、まちのエキスパネット、チームK・O・Z、藤山台地区住民2小学校跡地利用検討会の5団体が提出した活用提案の報告を受け、意見交換した。このうち再生市民会議は①市民の住まいに対する相談窓口②教室を利用した市民ギャラリーなどの場所提供③市民が自由に集うコミュニティカフェ運営などを提案。他の団体からも貸農園、子育て・高齢者支援活動の拠点、障がい児童余暇活動支援、英語保育園開設などの案が提示された。

ついで、活用のための基本方針の骨子案を協議。旧藤山台東小学校跡は中心地区に近い立地を生かし、既存施設を活用した福祉、文化など公共サービスを提供する拠点とすることが可能。近接した旧給食調理場跡には老朽化した保育園の移転建て替えを検討。西藤山台小学校跡は、主要道路に近い立地を生かし、民間主体の整備・運営も検討しながら、ニュータウンの魅力を高める商業・飲食サービス施設、高齢者住宅などの誘導が可能だとしている。次回会合は27日に開き、基本方針をまとめ各事業の進め方や運営方式などを協議する。（明賀 雄二）

私の朝・昼・晩

自立の中に「小さな幸せが」

今年68歳になる。妻に先立たれ現在単身生活を送っている。今年は妻の17回忌である。職業は家政<夫>、副業に建築の技術顧問をしている。家族は3人の子供がおり、うち長男は昨年、押沢台に転入し、長女は高森台でと近くに住んでおり、3人とも責任ある社会人として幸せに暮らしている。そのことは妻に胸を張って報告出来る。これは幸せなことである。

私の小さな幸せは、現在、顧問という立場で私が今まで仕事上経験してきたことやその知識を次の世代に伝えること。また、孫を幼稚園へ送り届ける時、若いお母さんたちとの挨拶や笑顔に触れ、日本の子育てはまだまだ大丈夫と思う瞬間である。

生活は少し前に胃がんを手術したこともあり、自炊を心掛けている。料理はボケ防止に良いと思っている。術後4年経つが元気であり、3年ほど前から始めた写真撮影会に行くのが楽しみとなっている。天気の良い日には、布団を干し、その温かくなった布団の中で、妻に一日の無事を感謝し、「おやすみ」と言って至福の眠りにつく。妻が心の中で共に生きている幸せを大切に思い、充実した日々を送っている。そしてこれから20年、自立した生活を送りたいと願っている。（坂本 秀明）